

平成21年6月4日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18530255
 研究課題名（和文） 20世紀中国経済と華僑送金：国際資金移動とその影響に関する歴史的検討
 研究課題名（英文） Overseas Chinese Remittances in the 20th Century Chinese Economy
 A Historical Analysis of the International Flow of Funds
 研究代表者
 城山 智子（SHIROYAMA TOMOKO）
 一橋大学・大学院経済学研究科・教授
 研究者番号：60281763

研究成果の概要：

本研究は、香港の送金業者の企業文書を利用し、20世紀初頭から1960年代までの華僑送金のシステムとその影響について検討した。送金は、香港を世界各地からの送金の中継地として、多様な通貨や為替レートの変動、そして中国内外の政治的混乱に対応して行われた。華僑送金が重要な外貨獲得源であったことから、中国共産党政府も送金の受け入れを奨励したが、文化大革命下の社会的圧力を受け、華僑送金は大きく減少した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,400,000	0	1,400,000
2007年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2008年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	600,000	4,000,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・経済史

キーワード：華僑、送金、中国、香港、華南、国際資金移動、中華人民共和国

1. 研究開始当初の背景

19世紀半ばから20世紀半ばにかけての100年余りの間、海外への出稼ぎ者や国外移住者から、中国国内の故郷の親族・友人への送金（華僑送金）が、中国国際収支の主要な受取項目であり、貿易収支では入超を続けていた中国経済にとって極めて重要であったことは、つとに同時代の経済学者や官僚らによって指摘され、また、近十年来の中国経済

史・アジア経済史研究でも広く認識されている。送金という形態での国外からの資金流入に大きく依存していたことは、当該期の中国経済の重要な特徴であると考えられる。しかし、従来、マクロ・レベルでの華僑送金の重要性は指摘されても、如何なる金融取引システムの下で安定的な資金移動が長期に互って可能になったのか、国外からの送金は、華僑の家族の家計や故郷の地域経済にどのよ

うな影響を与えたのか、といった、マイクロ・レベルでの送金のメカニズムとその影響に関する問題については、必ずしも十分に検討されてはいない。

また、華僑送金に見られるような 20 世紀前半の中国経済の対外開放性は、1949 年の中華人民共和国成立以降の国際金融市場からの孤立と自律的な経済政策運営とは顕著に異なる一方、1979 年の改革開放政策以降の国外からの資金・資本流入の増加とその国内政治・経済に与える影響の増大とは類似性を看取できる。開放と閉鎖の歴史的サイクルを踏まえて、中国経済の展開を長期的視点から検討することは、近代中国経済史研究と現代中国経済分析にまたがる問題領域として残されている。社会主義体制から改革開放へという体制移行下での中国経済の現状を分析しようとするならば、20 世紀中葉の中華人民共和国建国初期に中国経済は如何なる変容を遂げたのかも問われなければならない。中国経済の変化と継続性に考察を加える上で、1930 年代の大恐慌期に始まる世界経済のブロック化や第二次世界大戦後の民族独立・国民国家成立といったアジア地域における政治・経済変動や、戦後の国共内戦を経て 1949 年の中華人民共和国成立から建国初期の経済建設に到る一連の経済体制の変化の下で、19 世紀半ば以来形成されてきた中国をめぐる国際資金移動の回路が如何なる変容を遂げたのかを明らかにすることは、重要な課題と考えられる。

こうした研究状況に鑑みて、本研究は、20 世紀初頭から 1950 年代までの時期について、国内外を結ぶ華僑送金システムの実態を明らかにし、また、国外からの資金流入が中国南部（華南）の特に広東・福建両省を中心とする華僑の故地（僑郷）の地域経済に与えた影響を検討することを通じて、中国の対外経

済関係の歴史的展開に考察を加えるものである。

2. 研究の目的

本研究の主眼は、近年になって中国内外で整理・公開されつつある、個人、企業、政府の新資料を利用して、従来必ずしも明らかではなかった華僑送金システム内部の構造と動態に考察を加え、そうしたマイクロ・レベルでの対外経済関係の変容過程の分析を踏まえて、20 世紀初頭から中葉にいたる中国経済の長期的展開を検討することにある。具体的な研究課題としては、以下 3 点になる。

(1)家計の多国籍展開に関する考察：中国及び国外への移動の中継地となっていた香港では、近年、国外の華僑と国内のその家族による送金と家計の記録（僑批と呼ばれる手紙類、手形の写し、送金の受取書、帳簿など）の整理・公開が進んでいる。こうした個人が残した文献資料と数値データを利用することにより、従来の研究では明らかにされていない、送金システムの内的論理と実態を分析することが可能になる。

(2)国際・国内金融システムの連鎖の分析：国外からの送金が、東南アジアや香港・シンガポールを中心に活動していた民間の送金業者（信局）、世界各地にネットワークを広げる国際決済銀行（香港上海銀行など）、そして華南の地場金融業者を通じて行なわれていたことは、先行研究によって指摘されている。本研究は、そうした資金移動の大まかな流れを踏まえた上で、これらの国籍、規模、機能を異にする金融機関が、どのような取引関係を結んで、安定的な資金移動の回路を提供していたのかを明らかにする。

(3)体制移行期の華僑送金と華南地域経済の検討：日中戦争期から 1950 年代初期にかけて、華南地域は、日本軍による占領、内戦、そして中華人民共和国政府による統治の確

立、という大きな政治変動にさらされた。こうした政治体制の変化の下で、地域経済・社会がどのように変容していったのか、に関する検討は、未だ端緒に着いたばかりである。本研究は華僑からの送金とその影響に焦点を当て、この問題にアプローチするものである。

3. 研究の方法

本研究では、華僑とその家族自身の個人文書、送金に関わる金融機関の経営文書、地域の制度と政策に関する報告、という家計、金融システム、地域の3つの異なる対象に関する資料を相互連関的に分析することによって、国内外の間の資金の流れの態様を明らかにし、20世紀初頭から半ばにいたる中国経済の対外関係の展開に考察を加える。また、文献資料の検討と、家族と企業がそれぞれ残した帳簿から作成した数量データの分析を組み合わせて、資金移動に考察を加えることも、本研究の方法上の特徴となっている。

本研究が利用する重要な資料は、香港大学図書館蔵『馬叙朝文書』である。馬叙朝は、広東省台山県出身で、香港で絹織物輸出業を始め、保険や銀行業を営んだ企業家である（香港名人年鑑）。それらの事業の一端として、馬は故郷の台山を中心とする地域出身者、海外（特に北南米が多い）へ出稼ぎに赴いた者と、その家族との間の手紙のやり取りと、送金を扱った。香港政庁の行政官であったジェームズ・ヘイズにより収集され、香港大学に起草された馬叙朝文書は、手紙700通あまりと帳簿、手形の写しなどを含んでいる。特に、帳簿には、送金の手段、通貨、頻度、額、使途等が記載されており、華僑送金の実態を示す極めて重要な記録である。本研究では、帳簿からデータベースを作成し、20世紀初頭から1950年代後半まで間の送金を通時的に検討した。

4. 研究成果

帳簿に記録された資金の動きを再構成し、資金移動の経路、海外と香港、香港と中国本土（広東）との間の為替リスクへの対処、といった点に考察を加えた結果、海外の出稼ぎ者は、現地通貨と香港ドルの間では、まず、香港ドル建ての手形を現地の銀行で購入して送金することにより、将来の為替レート変動に伴うリスクを、回避する機会が多いこと、一方、香港と中国本土の間では、一時資金を香港の馬叙朝が利子付で受け入れ、為替レートが有利になる状況を待って、送金する場合が見られることが確認された。

日中戦争前、送金は、華僑の家族の家計を支えただけではなく、日中戦争前に当該地域で最初に建設された鉄道（新寧鉄道）を始めとして、地域のインフラの建設に大きく寄与していた。このように、家計や地域にとって不可欠の財源であった華僑送金は、日中戦争期から中華人民共和国初期にかけて、華南と香港との間の交通・金融が、戦乱によって遮断された時期も、香港の送金業者が専門の輸送人（クーリエ）を雇うなどの手段によって対応し、維持されていたことを明らかにした。

広東省档案馆（広州市、中華人民共和国）所蔵の中華人民共和国建国初期の華僑送金に対する政策に関する政府文書からは、建国後も中央・地方政府が、外貨獲得の為に華僑送金を維持・拡大することを目指していたことが看取される。そうした中国政府の政策にも対応して、香港の送金業者は、1950年代初期に、アメリカ合衆国政府、及びカナダ政府が、対共産中国政策の一環として、中国への送金を制限した際にも、送金の中継地として機能し、華南への送金を続けた。馬叙朝が扱った送金の主要な送り先である広東省台山県で聞き取り調査（2008年）等によれば、政府の方針に反して、華僑送金の流入が大きく

阻害されるようになったのは、1960年代の文化大革命時期であった。地域社会が不安定化する中で、華僑の家族及び送金の受け取りが激しい攻撃の対象となった為である。華僑送金は、戦前期から建国初期にかけての、中国本土、香港、海外との経済関係が、国内外の政治的変動の下でも、多様な送金手段によって続けられてきたが、地域社会の社会政治的圧力によって、遮断されることとなったのである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

(1) 城山智子 「一九三〇年代中国と国際通貨システム：一九三五年幣制改革の対外的・国内的意義に関する一考察」『国際政治』146、(2006年)、88～102頁、査読有

[学会発表] (計3件)

(1) 城山智子 「1929年世界経済危機下の中国経済」(中山大学亜太学院・歴史系聯合学術検討会、2008年12月16日)

(2) 城山智子 「公司借款：二十世紀初期上海紡績公司的集資問題」(「近代社会環境下の企業発展」上海社会科学院経済研究所、2007年7月20日-21日)

(3) Tomoko Shiroyama, "Structures and Dynamics of Overseas Chinese Remittance in the Mid- 20th Century" (XIV International Economic History Congress, Helsinki, August 21-25, 2006)

[図書] (計1件)

(1) Tomoko Shiroyama, *China during the Great Depression: Market, State and the*

World Economy, 1929-1937, Cambridge MA: Harvard University Asia Center, 2008, 325p.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

城山 智子 (SHIROYAMA TOMOKO)

一橋大学・大学院経済学研究科・教授

研究者番号：60281763

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし